

授業科目	ハングル入門				単位	1		
履 修	選択	関連資格			ナンバリング	TO10506J		
開講年次	1	開講時期	前期	該当DP	DP1-1 DP5-1			
担当教員	韓 京我							
授業概要	ハングルの文字と発音を少しずつ覚えながら、日常的に用いられる挨拶などの決まり文句や身近な物事について、会話表現を中心に学び、韓国語で簡単なやりとりや自己紹介ができるようになることを目指す。なお、授業は指定の教科書を中心に進めるが、受講生の理解を助けるため、補充資料や練習用プリントを用いることがある。							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常の挨拶、感謝、謝罪などの簡単な決まり文句、返事やあいづちなどを適切に使えるようになる。 2. 身近な物事・人を表す単語や表現などを聞いて意味が理解できる。 3. 授業で学習した単語や文法を使って書かれた文書を理解し、正しく読んだり、書いたりすることができる。 							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	50	20	0	10	10	10	100	その他は、授業への参加度
知識・理解 (DP1-1)	30	10		5	5	5	55	試験・テスト・課題
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)								
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度(DP4-1)								
態度(DP4-2)								
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)	20	10		5	5	5	45	試験・テスト・課題
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
<ol style="list-style-type: none"> 1. ハングルの読み書きが正しく自由にできるようになること。 2. 韓国語で質問し、その答えを聞き取ることができる。 				<ol style="list-style-type: none"> 1. ハングルの読み書きができる。 2. 挨拶ができる。 3. 自己紹介ができる。 				

授業計画				
進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	オリエンテーション 韓国語とハングルの概要 第1課 基本母音字、ヤ行の母音字	※スライドによるオリエンテーションを行う 講義	復習:該当部分の復習	60
2	第2課 基音子音字、出会いの挨拶	講義	復習:該当部分の復習	60
3	第3課 濁る子音字、別れの挨拶	講義	復習:該当部分の復習	60
4	第4課 激音の子音字、日本語のハングル表記法	講義	復習:該当部分の復習	60
5	第5課 つまる子音字(濃音)、尋ねる・答える	講義	復習:該当部分の復習	60
6	第6課 フ行の母音字、ハングル表で練習、感謝 I	講義	復習:該当部分の復習	60
7	第7課 パッチム、感謝 II	講義	復習:該当部分の復習	60
8	第1～7課の主要学習内容について復習 中間テスト(文字読み取りテスト)	第1～7課の内容について中間テストを行う	復習:該当部分の復習	60
9	第8課 プレゼント、何、感嘆表現、連音化	講義	復習:該当部分の復習	60
10	第8課 名詞文～です、人の呼び方 第9課 謝罪、発音のルール	講義	復習:該当部分の復習	60
11	第9課 「ㄷ」の発音、鼻音化、激音化 第10課 自己紹介、1人称代名詞、～は、	講義	復習:該当部分の復習	60
12	第10課 ～は<疑問詞>ですか?、会話練習	講義	復習:該当部分の復習	60
13	自己紹介・挨拶・会話テスト	口頭での発表をもって評価する	復習:該当部分の復習	60
14	第11課 日付、激音化、月日の言い方、韓国の記念日	講義	復習:該当部分の復習	60
15	第8～11課の主要学習内容について復習 全体的なまとめ	講義	定期試験に備えて復習	
16				
17				
18				
19				
20				
21				

22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	予習・復習はもちろん、ハングルの読み書きを徹底練習すること。外国語のマスターには積極的な発音練習が大きな鍵となる為、声に出して読み、普段日本語ではあまり用いない様々な発音を直に体験し、色々な音を聴き分ける「耳」を育てよう。次に毎時聴く・話すことの喜びを積み重ねていくこと。習い覚えた韓国語を日常生活の中でどんどん使う習慣をつける。			
テキスト	長谷川由紀子 著 『コミュニケーション韓国語 聞いて話そうⅠ』 白帝社			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	随時紹介します。			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	教科書添付の音声ファイルを活用して対話になじむように取り組むこと。			
達成度評価に関するコメント／課題に対するフィードバックの方法	出席と復習は基本です。定期試験、中間テスト(文字読み取り)、自己紹介・挨拶テスト、課題、授業への参加度、受講態度で総合的に評価します。熱意とやる気を持って積極的に取り組みましょう。			

